



「器械運動」

～マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動～

(小学校 中～高学年・体育科)



ツール・機能：録画機能

遅延再生アプリ・動画比較アプリ（有料）

分類：思考活動・協働活動

ICT活用のねらい

- 運動の様子を動画で撮影し、保存しておくことで、客観的に見るのが難しい自分の動きが可視化され、到達状況を把握することができるので、自分の課題に気づき、その後の学習改善に生かすことができます。
- 運動の様子を撮影した動画を再生しながら、自分や友達の動きを確認したり、比較したりして、よかった点や改善点などを伝え合うことで、対話的な学びや協働的な学びの充実につなげることができます。
- 運動の様子を録画しておくことで、教師による学習状況の見取りに活用することができます。



学習の流れ

活用場面①

活用場面③

導入	展開	まとめ
<p>・本時のめあてをつかむ。</p> <p>・動きをイメージできない児童にモデルを示したり、自分や友達の動きを確認したり、比較したりして、動きのこつや技のポイントを話し合い、技能の向上を目指すために、1人1台端末を使って、運動の様子を撮影することを確認する。</p>	<p>【チャレンジタイム】</p> <ul style="list-style-type: none">・運動の様子を、同じグループの友達に動画で撮影してもらう。 <p>【レベルアップタイム】</p> <ul style="list-style-type: none">・遅延再生機能やスローモーション再生機能、連続再生機能などを使い、運動の様子を視覚的・客観的に確認し、自分の到達状況を把握する。・グループで運動の様子を再生しながら、よかった点や改善点について意見交換する。	<p>・友達からのアドバイスや気付いたことをワークシートにまとめ、よかった点や改善点を明確にし、もう一度、技に挑戦し、次時のめあてへとつなげる。</p>

活用場面②



ここがポイント!

展開での活用場面①

【チャレンジタイム】

本時のめあてを達成しようとチャレンジしている運動の様子を、同じグループの友達に動画撮影してもらいます。



【具体的には・・・】

端末のカメラで、技のポイントに焦点を当てて撮影したり、机などで固定し、全体の様子を撮影したりします。その動画を見ながら、複数で見合ったり、教え合ったりしながら、児童が目的に合わせて活動できるように声をかけます。



技能の向上に向けて「どのように工夫すればよいか」を考えさせるため、事前に児童に確認すべき視点を与えておく必要があります。

例えば・・・

「自分や友達の動きを確認したり、比較したりして、動きのこつや技のポイントに注目する」など。

ここがポイント!

展開での活用場面②

【レベルアップタイム】

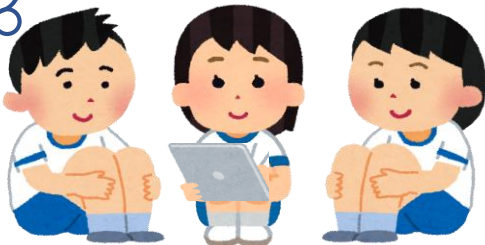
再生機能を使い、自分の到達状況を確認します。
グループで、技能向上に向け、意見交換をします。



うまくできるには、どこを改善したらいいのかな?

足は、頭の上にあるボールがあると思って、そのボールを蹴るイメージで上げるといいよ。

逆上がりができる人は、みんな肘を曲げて、おへそと鉄棒がくっついているね。それを意識して回ってみるといいかも!



【具体的には・・・】

遅延再生機能やスローモーション再生機能、連続再生機能などを使い、運動の様子を視覚的・客観的に確認し、自分の到達状況を確認します。
グループで自分や友達の前運動の様子を再生しながら、よかった点や改善点について意見交換します。



運動の様子を録画することで、教師による学習状況の見取りに活用することができます。

ここがポイント!

まとめでの活用場面③

学習を振り返って、気付いたことをワークシートにまとめ、次時のめあてへとつなげます。



【具体的には・・・】

友達からのアドバイスや気付いたことをワークシートにまとめます。

よかった点や改善点を明確にした上で、もう一度、技に挑戦し、次時のめあてへとつなげます。



動きのこつや手の曲げ方、足の蹴り上げ方など技のポイントをアドバイスしてもらったことで、前より上手にできるようになったよ!



運動の様子を録画することで、教師による学習状況の見取りに活用することができます。